

2022年8月9日

令和4年度 食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム

日配品の商慣習に関する検討会 第1回

議事要旨

<実施概要>

日時：令和4年8月4日（木） 13時00分～14時30分

議題：

- ・ 今年度の実施内容について
- ・ 調査内容について
- ・ 食品ロス削減月間の取り組みについて
- ・ 意見交換
- ・ 今後の予定

参加者：別紙委員名簿参照

文責：公益財団法人流通経済研究所 上席研究員 石川友博

<議題についての委員の発言>

- ・ 日配品の調査項目に、なぜ食品ロスが出るのか、食品ロスの発生量についてどう評価しているのかを尋ねる内容を入れてほしい。小売店舗でのロス発生は少ないと思うので。（メーカー）
- ・ 需要予測は近年進化が顕著である。それをどのように活用しているか調査項目に加えてほしい。（メーカー）
- ・ 発注リードタイムの延長の取組事例の公表基準は「前々日発注」が良いと思う。（メーカー）
- ・ → メーカーの業種によってどの程度のリードタイムがあれば見込み生産がなくなるかは異なると思う。どのような効用基準が適正かよく検討してほしい。（メーカー）
- ・ 販売期限延長の取組事例の公表基準は「賞味期限/消費期限当日」で良いと思う。ただしメーカーの業種や小売業の状態によって考え方が異なると思うので幅広く意見を集めて決めてほしい。（メーカー）
- ・ 以前の調査で発注リードタイムの短い小売業も長い小売業も店舗の廃棄ロス率は変わらないという結果があったと思う。こうした結果を踏まえてリードタイムの延長をより積極的に小売業に提案しても良いのではないか。（メーカー）
- ・ 令和3年12月に制定された食品製造業者・小売業者間における適正取引推進ガイドラインは、

前日発注などの短納期の是正が望ましい取引のために求められるとしている。リードタイムの問題にはこのガイドラインに対する理解の拡大も重要ではないか。(メーカー)

- 小売業各社は食品ロスの削減に多大な苦勞をされていると思う。公表事例はなるべく多くのマスメディアで取り扱われるようにしてほしい。(メーカー)
- フードバンクの活用に関する税制優遇措置は、事業者あまり知られていないと思うのでしっかりと周知してほしい。(メーカー)
- 日配品調査の категорияに「洋菓子」があるが、温度帯などによって食品ロスの発生状況は同じ洋菓子でも様々であるので、もう少し細い分類に変更してほしい。洋生菓子、洋菓子等。(メーカー)
- メーカーにも調査票を送るのがよい。(メーカー)
- 当社では、スーパーやドラッグストアからの日々の発注は、量のぶれが少なく、予測しやすくロスが少ない。一方で近年外食ルートに起因するロスの発生が多くなっている。要因の一つはコロナである。行政の政策によって、来店客数の増加が著しく、前年の実績も参考にならないため、需要予測が難しくなっているためである。外食もこの検討会のスコープに入れてはどうか。(メーカー)
- 当社では前々日発注では見込み生産がなくなる。製造に 36~40 以上時間かかるからである。日配品のリードタイムに関する公表基準の検討の際には考慮してもらえるとありがたい。(メーカー)
- 調査では食品ロス削減につながる小売業の DX についての取り組み状況や事例情報を把握するようにしてほしい。需要予測情報を小売業から共有してもらえるとメーカーとしても食品ロス削減につながる機会が拡大する。そうした機会がどの程度あるか調査で分かるが良い。(メーカー)
- 日配品調査の categoriaに麺や総菜（おにぎり、調理食品等）を追加してもらいたい。(メーカー)
- 前々日発注になることは重要である。食品ロス削減に加えて作業負担や人員確保の軽減、物流効率化につながる。(メーカー)
- 当社では賞味期限を3日前後延長した上で、3日連続で同じ賞味期限日で製造出荷することの了解を取引先から得る取り組みを始めた。これによって日付逆転によって出荷できなくなるケースを

減らし、未出荷廃棄の削減につながっている。小売業でも品出しの際に、先入先出をしなくて済む場合が増えるため、喜ばれており、サプライチェーンの食品ロス削減につながるとして、支持を受けている。（メーカー）

- 現在業界団体で賞味期限マニュアルの見直しを行っており、安全係数の設定緩和についても検討している。検討の結果次第で年度内にも賞味期限の延長が実現するかもしれない。（メーカー）
- アンケートの回収企業数が 100 社以上できれば 200 社程度になるように、配布数を増やして欲しい。（メーカー）
- 検討会のメンバーに乳製品、洋日配、和日配メーカーを加えてはどうか。小売業も企業数を増やしてはどうか。（卸売業）
- 店舗に納品されないプライベートブランドの廃棄も少なくない。プライベートブランドのロスの現状についても把握してはどうか。（卸売業）
- フードバンクへの食品の提供は積極化したいと思うが、フードバンクが年々増加しており、どこに寄贈するのが良いのか判断に迷うことがあるので、判断材料となる情報があるとありがたい。（卸売業）
- 今回の調査とは別に、フードバンク側が認識している活動拡大の課題も調べてはどうか。（卸売業）
- 終売が決まった商品について、欠品が認められない場合があり、商品や原材料のロスが発生している。今回の調査で終売に関連して発生する食品ロスの実態を捉える設問を設けてはどうか。（卸売業）
- リードタイムの問題は加盟店の食品ロスの発生に関わるので、検討しているが、結論を出すのが難しい。ただし、SDGs の観点からはリードタイムの検討は重要とも考えており、この検討会の議論の結果も踏まえて、引き続き検討していきたい。（小売業）
- 年々気象の変動が激しくなっていることもあり、気象データを活用した需要予測に対するニーズが高まっている。弊社でも導入しやすい価格帯のサービスもリリースし、取り組みを強化している。導入した小売業では食品ロスと機械ロスを共に削減することに成功している。導入企業の拡大を期待している。（有識者）
- 調査票の Q16 は、主語・述語の関係がわかりにくいいため、文章を見直してほしい。（メーカー）

以上